

試料・情報利用研究計画書(概要)					
審査委員会 受付番号	2020-1002	利用形態	共同研究	利用する 試料・情報	対象:地域住民コホート、三世代コホートの参加者のうち、ゲノム網羅的SNPチップの解析情報があり、メタボローム解析の一環として分岐鎖アミノ酸の測定が行われている成人 最大約20,000人 試料:なし 情報:基本情報(年齢、性別、BMI)、調査票情報(身長、体重、既往歴)、血液検査情報(採血日時、空腹時間、糖尿病や腎疾患に関連する検査値(HbA1c等)、メタボローム情報(分岐鎖アミノ酸のみ)、ゲノム配列情報
主たる研究機関	国立がん研究センター			分担 研究機関	東北メディカル・メガバンク機構
研究題目	血液中分岐鎖アミノ酸濃度におけるゲノムワイド関連解析研究			研究期間	2020年4月～2022年3月
実施責任者	岩崎 基	所属	国立がん研究センター 社会と健康研究センター		職位 疫学研究部長
研究目的と意義	本研究の目的は、東北メディカル・メガバンク計画において取得されたメタボローム解析情報とゲノム網羅的な一塩基多型(SNP)情報を用いて、分岐鎖アミノ酸濃度とそれに関連するSNPsをゲノムワイド関連解析(GWAS)にて同定することです。				
研究計画概要	当機構におけるコホート調査の対象者の分岐鎖アミノ酸濃度情報と遺伝子との関連を調べるため、ゲノムワイド関連解析を実施します。 具体的には、メタボローム解析の結果により得られたバリン、ロイシン、イソロイシンおよびその総和をアウトカムとしSNPとの関連の程度を検討するゲノムワイド関連解析を行います。この際必要に応じてBMIや耐糖能異常にかかわる検査値での統計学的調整を実施します。				
期待される成果	本研究の結果は、分岐鎖アミノ酸と膵がんの関連に関するメンデルランダム化解析を行う上で必須の情報として、別途計画される研究において利用されます。				
これまでの倫理 審査等の経過	2020年2月 国立がん研究センター倫理委員会承認 2020年4月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認				
倫理面、セキュリ ティ面への配慮	ヒトを対象とする医学系研究の倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理指針、ToMMoセキュリティポリシーの他、別途締結する研究契約を遵守して研究を遂行します。 利用する情報は、東北メディカル・メガバンク機構内で既に収集されスーパーコンピュータ内に保管されており、解析は東北メディカル・メガバンク機構および国立がん研究センターに設置されたシンクライアントを経由してアクセスして行われ、外部への持出しはありません。				
その他特記事項	科学研究費助成事業、国立がん研究センター研究費				
* 公開日	令和2年5月1日				